

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第39期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社秋川牧園
【英訳名】	AKIKAWA FOODS & FARMS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 秋川 正
【本店の所在の場所】	山口県山口市仁保下郷317番地
【電話番号】	083(929)0630
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 原田 良人
【最寄りの連絡場所】	山口県山口市仁保下郷317番地
【電話番号】	083(929)0630
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 原田 良人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期連結 累計期間	第39期 第3四半期連結 累計期間	第38期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	4,085,541	4,171,660	5,399,241
経常利益 (千円)	129,180	104,990	142,111
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	90,046	58,982	99,733
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	96,612	66,300	114,455
純資産額 (千円)	1,482,089	1,543,936	1,499,735
総資産額 (千円)	4,331,856	4,980,921	4,482,472
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	21.59	14.15	23.91
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	34.2	31.0	33.5

回次	第38期 第3四半期連結 会計期間	第39期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	9.58	9.05

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日）におけるわが国の経済は、政府の経済政策、日銀の金融政策の効果が下支えするなかで、緩やかな回復基調で推移してまいりました。しかしながら、国内における人手不足の深刻化、中国をはじめとする新興国経済の動向、米国の政権運営及び地政学的リスクへの懸念等から、先行きは不透明な状況となっております。

食品業界におきましては、個人消費が伸び悩むなど依然として厳しい環境にありますが、高齢化が進む中での健康意識の高まりもあり、消費者の食の安心・安全に対する関心は年々高くなっております。

このような状況の中、主力の鶏肉及び冷凍加工食品の販売は前年並みに推移し、また全国向けの宅配の販売が首都圏を中心に伸長したこと等から、売上高は増加いたしました。利益面につきましては、鶏肉一次処理の生産性向上等ありましたが、運賃等の物流コストの増加や、間接部門における販売費及び一般管理費の増加等により減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、41億71百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は70百万円（前年同期比43.6%減）、経常利益は1億4百万円（前年同期比18.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は58百万円（前年同期比34.5%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### （生産卸売事業）

生産卸売事業につきましては、冷凍加工食品や乳製品等の販売が増加したことにより、売上高は増加いたしました。利益面につきましては、鶏肉一次処理の生産性向上等ありましたが、物流コスト等の販売費及び一般管理費の増加や、鶏卵生産における生産性の低下等の影響により減益となりました。

この結果、生産卸売事業の売上高は、32億70百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益は3億6百万円（前年同期比9.1%減）となりました。

#### （直販事業）

当社の食品を中心に会員宅に商品をお届けする直販事業につきましては、全国向けの宅配の販売が首都圏を中心に伸長したことにより売上高は増加いたしました。利益面につきましては、売上高は増加したもののピッキング費用等の販売費及び一般管理費の増加により、前期並みとなりました。

この結果、直販事業の売上高は、9億円（前年同期比5.1%増）、営業利益は8百万円（前年同期比9.9%減）となりました。

#### (2)財政状態の分析

##### （流動資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、22億15百万円（前連結会計年度末は20億18百万円）となり、前連結会計年度末と比べ1億96百万円増加いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加（1億86百万円）によるものであります。

##### （固定資産）

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、27億65百万円（前連結会計年度末は24億63百万円）となり、前連結会計年度末と比べ3億2百万円増加いたしました。主な要因は、有形固定資産の増加（2億97百万円）によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、18億11百万円(前連結会計年度末は17億64百万円)となり、前連結会計年度末と比べ47百万円増加いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加(71百万円)によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、16億25百万円(前連結会計年度末は12億18百万円)となり、前連結会計年度末と比べ4億7百万円増加いたしました。主な要因は、長期借入金の増加(3億90百万円)によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、15億43百万円(前連結会計年度末は14億99百万円)となり、前連結会計年度末と比べ44百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金の増加(38百万円)によるものであります。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、34,094千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,179,000	4,179,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,179,000	4,179,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	4,179	-	714,150	-	381,030

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 9,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 4,162,000	4,162	-
単元未満株式	普通株式 8,000	-	-
発行済株式総数	4,179,000	-	-
総株主の議決権	-	4,162	-

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
㈱秋川牧園	山口県山口市仁保下郷317	9,000	-	9,000	0.22
計	-	9,000	-	9,000	0.22

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、西日本監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	819,083	626,627
受取手形及び売掛金	625,929	812,646
商品及び製品	142,428	211,481
仕掛品	167,231	272,751
原材料及び貯蔵品	79,468	92,402
繰延税金資産	34,428	28,084
未収入金	132,344	147,533
その他	20,266	25,241
貸倒引当金	2,255	1,610
流動資産合計	2,018,925	2,215,158
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	775,785	858,084
機械装置及び運搬具(純額)	353,985	457,053
土地	956,966	957,996
建設仮勘定	81,322	189,259
その他(純額)	97,055	100,202
有形固定資産合計	2,265,116	2,562,597
無形固定資産		
のれん	30,707	27,970
その他	50,193	44,451
無形固定資産合計	80,900	72,422
投資その他の資産	1,117,529	1,130,743
固定資産合計	2,463,546	2,765,763
資産合計	4,482,472	4,980,921
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	409,634	480,800
短期借入金	961,171	986,446
リース債務	7,698	5,185
未払法人税等	47,508	15,726
賞与引当金	34,565	42,870
その他	303,857	280,510
流動負債合計	1,764,436	1,811,539
固定負債		
長期借入金	891,201	1,282,106
リース債務	24,109	22,676



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
繰延税金負債	17,129	17,654
退職給付に係る負債	234,686	249,537
役員退職慰労引当金	51,173	53,472
固定負債合計	1,218,300	1,625,446
負債合計	2,982,736	3,436,985
純資産の部		
株主資本		
資本金	714,150	714,150
資本剰余金	553,441	553,441
利益剰余金	210,354	248,481
自己株式	4,579	5,823
株主資本合計	1,473,367	1,510,250
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,368	33,550
その他の包括利益累計額合計	26,368	33,550
非支配株主持分	-	136
純資産合計	1,499,735	1,543,936
負債純資産合計	4,482,472	4,980,921

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	4,085,541	4,171,660
売上原価	3,032,396	3,115,773
売上総利益	1,053,145	1,055,887
販売費及び一般管理費	928,891	985,857
営業利益	124,253	70,030
営業外収益		
受取利息	168	79
受取配当金	1,212	918
補填金収入	3,798	13,016
補助金収入	4,106	5,487
保険返戻金	-	18,111
その他	5,080	6,187
営業外収益合計	14,366	43,802
営業外費用		
支払利息	9,337	8,811
その他	102	30
営業外費用合計	9,439	8,841
経常利益	129,180	104,990
特別利益		
固定資産売却益	2,648	1,693
補助金収入	45,764	2,085
特別利益合計	48,412	3,778
特別損失		
固定資産売却損	51	965
固定資産除却損	5,522	5,652
固定資産圧縮損	45,764	2,085
特別損失合計	51,337	8,702
税金等調整前四半期純利益	126,256	100,066
法人税、住民税及び事業税	36,996	37,231
法人税等調整額	872	3,716
法人税等合計	36,123	40,947
四半期純利益	90,132	59,118
非支配株主に帰属する四半期純利益	86	136
親会社株主に帰属する四半期純利益	90,046	58,982

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	90,132	59,118
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,479	7,181
その他の包括利益合計	6,479	7,181
四半期包括利益	96,612	66,300
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	96,526	66,164
非支配株主に係る四半期包括利益	86	136

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
投資その他の資産	42千円	335千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

当社グループの主たる事業では、鍋シーズンやクリスマスなどの冬季に、鶏肉製品が集中して受注を受けるため、第3四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ著しく高くなるという季節の変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	228,801千円	250,966千円
のれんの償却額	2,736	2,736

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	16,685	4	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	20,855	5	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	生産卸売	直販	
売上高			
外部顧客への売上高	3,228,210	857,330	4,085,541
セグメント間の内部売上高 又は振替高	251,593	1,347	252,940
計	3,479,804	858,677	4,338,481
セグメント利益	337,582	9,074	346,656

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	346,656
のれんの償却額	2,736
全社費用(注)	219,666
四半期連結損益計算書の営業利益	124,253

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び品質管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	生産卸売	直販	
売上高			
外部顧客への売上高	3,270,894	900,766	4,171,660
セグメント間の内部売上高 又は振替高	251,972	2,293	254,265
計	3,522,866	903,059	4,425,926
セグメント利益	306,717	8,174	314,892

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	314,892
のれんの償却額	2,736
全社費用(注)	242,126
四半期連結損益計算書の営業利益	70,030

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び品質管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	21円59銭	14円15銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	90,046	58,982
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	90,046	58,982
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,171	4,169

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月8日

株式会社秋川牧園

取締役会 御中

西日本監査法人

代表社員 公認会計士 梶田 滋 印  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 山内 重樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社秋川牧園の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社秋川牧園及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。